

うめきた2期区域まちづくり方針検討資料

まちづくりの方針の骨子(案)

<目次>

1. 2期区域のまちづくりの目標.....	1
2. 「みどり」のあり方.....	2
3. 導入する都市機能.....	4
4. まちの骨格の景観形成、空間づくり.....	5
5. 交通ネットワーク.....	6
6. 災害に強いまちづくり.....	7
7. 環境共生のまちづくり.....	7
8. まちの管理運営.....	8
9. 周辺との一体的なまちづくり、周辺への波及効果等.....	8

はじめに

- ・ この「まちづくりの方針」は、うめきた2期区域のまちづくりのめざすべき方向性などを示すものであり、当区域の都市計画や平成27年度以降に開発事業者を決定するために実施が予定されている「(仮称)うめきた2期区域開発事業者募集」におけるまちづくりの基本的な考え方をまとめたものである。
- ・ 「みどり」を軸とした質の高いまちづくりを実現するため、民間からの独創的なアイデアやノウハウを求める「うめきた2期区域開発に関する民間提案募集」を平成25年度に実施し、選定された優秀提案の内容をもとに、提案者との「対話」も行いながら、「うめきた2期区域まちづくり検討会」において、まちづくりの方針についての検討を進めてきた。
- ・ 本方針のもと、各主体が今までにない斬新で豊かな発想、創意工夫を最大限発揮して、本方針を具現化し、具体的な方策を展開の上、公民連携のもとでうめきた2期区域のまちづくりを実現するものである。

1. 2期区域のまちづくりの目標

- ・ これからの大阪のまちづくりについては、国際社会の情勢や国の政策動向とも呼応し、「グランドデザイン・大阪」(大阪府・大阪市、平成 24 年 6 月策定)において「圧倒的な『みどり』の導入」、さらに国家戦略特区提案(大阪府・大阪市、平成 25 年 9 月提出)では「世界水準の都市空間の創出」「世界から認められるイノベーション創出拠点の形成」をめざすことが示されている。
- ・ うめきたのまちづくりは、その実現を先導するリーディングプロジェクトであり、JR 大阪駅に隣接するその立地ポテンシャルを活かし、関西の力を結集させ、我が国の国際競争力の強化にも資する拠点の形成をめざす。
- ・ 先行開発区域において、最先端の技術や情報の集積と多様な人々の交流を通じて新たな商品やサービスを生み出す「ナレッジ・キャピタル」が形成されており、これと連携する新たな都市機能の導入により、経済、産業の成長の源泉となるイノベーションを創出する拠点としての機能強化を図ることが必要である。
- ・ ここでしか見られない、体感できない緑豊かな都市環境は、最先端の防災・環境技術との融合、先進的なまちづくりの実践により、都市に活力と潤い、人々に安らぎと安全をもたらすだけでなく、新たな文化、価値を創造し、比類のない魅力をもたらす。その魅力は、世界から人や資本を呼び込み、イノベーションを創出する原動力として、大阪ひいては我が国に新たな国際競争力を獲得させる。

以上から、2期でめざすべきまちづくりの目標を設定する。

2期区域のまちづくりの目標

世界に比類なき「みどり」と「イノベーション」の融合拠点

世界の人々を惹きつける比類なき魅力を備えた「みどり」

- まち全体を包み込む「みどり」が、ここにしかない新しい都市景観を創出し、多様な活動、新しい価値を生み出す源となり、世界の人々を惹きつける。

新たな国際競争力を獲得し、
世界をリードする「イノベーション」の拠点

- 世界からの人材、技術を集積・交流させ、新しい産業・技術・知財を創造することで新たな国際競争力を獲得し、我が国の成長エンジンとして世界をリードする「イノベーション」の拠点となる。

- 「みどり」の力により 2 つの目標の連携を実現し、さらに「みどり」を最先端の防災・環境技術と融合させることによって、世界に強く発信できるまちづくりとする。

2. 「みどり」のあり方

(1) 「みどり」の役割

① まちの基盤となり、次代に受け継ぐ資産となる「みどり」

- ・ 「みどり」が都市の骨格として、災害に強いまちや環境に優しいまちをつくる基盤を構成し、持続性を持ち次代へと受け継ぐまちの資産となる。

② 使いこなしによって多様な活動を生み出す「みどり」

- ・ 人々が、「みどり」の中で活動し多様に「みどり」を使いこなす。その姿が、生き活きたまの風景を創り、その風景に魅せられさらに多くの人々を惹きつけ創造的な活動を生む好循環を創る。また、文化を創造、発信し、先導的な技術産業を創出するなど、新しい価値を生み出す。
- ・ これら多様な活動に場を提供し、それにより得られた収益を質の高い「みどり」の管理等に活用する。

③ 成長しながら、周辺地域へ進出、波及効果を生み出す「みどり」

- ・ 「みどり」が長い時間をかけ成熟・発展しながら、周辺地域にも進出し、淀川や中之島ともつながる緑のネットワークを形成する。また、波及効果を生み出し、周辺のまちも含めた一体的な成長・発展を牽引する。

(2) 「みどり」の空間形成

① 斬新で質の高い景観を創る「みどり」

- ・ 公園、道路、交通広場等の公共空間と民間敷地、まち全体が「みどり」に包まれ、ここでしか体験できない新しい都市景観を形成する。
- ・ 「みどり」が建築物と共生・融合し、平面的な広がりに加え立体感や奥行きを生み出すとともに、印象的かつ多様な見え方・楽しみ方を提供する空間を創る。

② メッセージ性のある「みどり」

- ・ 緑や水の空間形成を通じた新しい価値観を提示し、また、変化に富んだ四季の風景といった日本特有の感性・文化や、都市における自然生態系の再生など、世界に発信するメッセージ性をもつ「みどり」を導入する。

③ 「みどり」の成長など時間軸を組み込んだデザイン

- ・ 植物の生長や経年変化といった時間軸を考慮し、「みどり」の成熟とともにまちの景観や表情の変化を生み出す。
- ・ 多様な活動に場を提供することにより得られた収益を活用して、さらなる魅力を持った「みどり」へと常に発展できるよう、柔軟性・可変性を備えた空間とする。

(3)「みどり」の配置・規模

- 「みどり」は、すべての人々に開かれ、誰もが自由にアクセスでき、そこで人間の活動が豊かに展開される緑豊かなオープンスペースであり、下記の2つで構成する。

①地上のまとまった「みどり」

接地性のあるまとまった「みどり」で、恒久性、永続性を持つ

②建築物と一体化し地上と連続する「みどり」

地上のまとまった「みどり」と連続し、円滑にアクセスすることができる、建築物と一体化した「みどり」で、「みどり」の新たな可能性を提示する

- 「みどり」を2期区域全体に展開し、概ね 8ha(水面等も含む)を確保する。
- ①地上のまとまった「みどり」については、2期区域のシンボルとして、重要な視点場である JR 大阪駅からの眺望の確保や視覚的な一体感、そして隣接する周辺の緑との連続性、さらには大規模災害時への対応における優位性等から、地区中央部に確保するものとし、その規模は概ね 4ha とする。



図 「みどり」の配置・規模

3. 導入する都市機能 ～「イノベーション」を生み出し成長を牽引するエンジン～

(1)中核機能

- 関西の力を結集し、先行開発区域のナレッジ・キャピタルを強化・発展させ、「みどり」と一体となって常に世界をリードするイノベーションを生み出し、周辺地域への波及、相乗効果を発揮するものとして、下記のものを設定する。

① 新産業創出（例：健康・医療、環境・エネルギー等）

- ・ グローバルな課題への対応が求められ、今後も著しい成長が期待される産業分野（例：健康・医療、環境等）において、関西の持つ産業集積の強み・ポテンシャルを最大限発揮し、最先端の技術・情報等を集積・発信するとともに、異分野のコラボレーション・知的交流・共同事業を展開することで新産業を創出する。

② 国際集客・交流（例：MICE・文化創造・発信等）

- ・ 当地区の立地ポテンシャルに加え、大阪、さらには京都、神戸、奈良など関西の持つ豊かな都市文化の蓄積も活かしながら、世界的に需要が伸長している国際的な企業・産業活動、研究・学会活動を積極的に誘致するなどにより、国外からの来訪者を受け入れ、多様な人々が交流し、創造的な活動を展開し、発信する。

※MICE：企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(インセンティブ旅行)(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称

③ 知的人材育成（例：連携大学・大学院、国際化教育等）

- ・ 創造性豊かな知的人材は、イノベーション創出の源泉となるものであり、その育成が重要であることから、企業や研究・教育機関などの技術、ノウハウを活用し、産学官連携による研究、技術開発や事業化支援、あるいは国際色豊かな環境づくりなどにより、世界で活躍するグローバル人材を育成、輩出する。
- ・ 大学等の研究機関等は、人材育成に寄与するだけでなく、ナレッジ・キャピタルの機能を強化・発展し、その成果をグローバルに展開させ、関西の発展を牽引するビジネスの創出に繋げるために重要な役割を果たす。

- 中核機能の導入により、大阪駅周辺地域や中之島といった周辺地域のみならず、関西の各都市との連携、発展、交流をも促し、関西の国際社会での存在感を新たなステージへ強かに引き上げることをめざす。

(2)その他の都市機能

- 比類なき魅力を備えた「みどり」のなかで、中核機能と連携、あるいは中核機能を補完しながら、国境を越えて様々な活動を誘発し、賑わい等を生み出す複合的な機能の集積を図り、世界水準のビジネス環境や質の高い居住環境などを創出する。

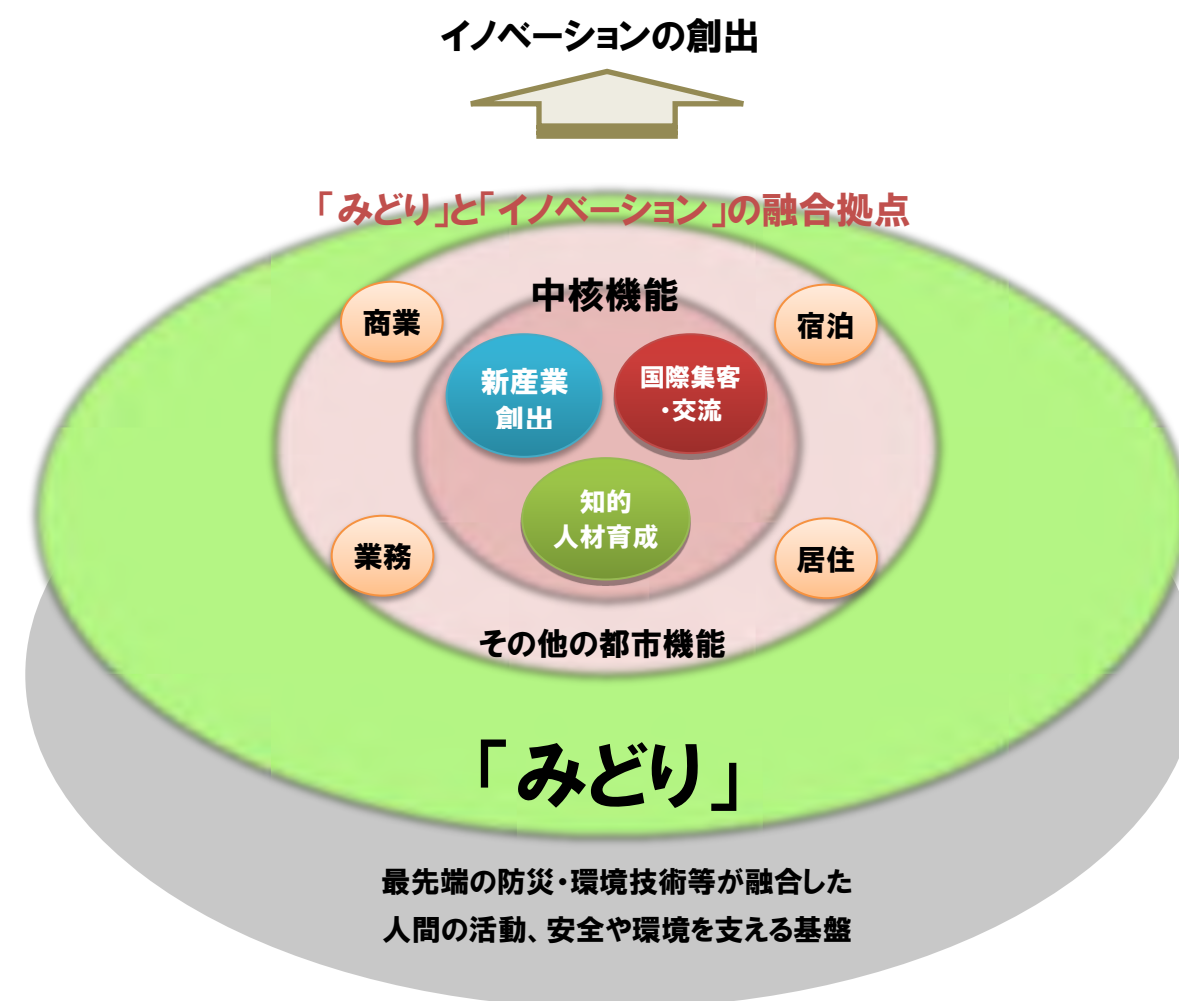


図 導入する都市機能の概念図

4. まちの骨格の景観形成、空間づくり ～「みどり」を体感できる空間づくり～

<基本的な考え方>

地上の歩行者ネットワークの主軸として、回遊性を高める役割を果たし、先行開発区域との関係性に留意しながら、「みどり」を体感することができる空間形成を図る。

(1)東西軸 ～「賑わい軸」～

- 東西軸は、阪急梅田駅方面や先行開発区域の賑わいを2期区域内に呼び込み、新梅田シティ方面へつなげる「賑わい軸」として、2期区域の「みどり」を体感できるよう配慮しながら、賑わいある空間を形成する。
- 南・北街区にまたがる「みどり」の一体性、連続性の確保を図り、歩行者デッキ等の立体横断施設を設置する場合は、沿道の開放感ある空間形成に配慮する。

(2)南北軸 ～「みどり」と一体となったゆとりある歩行者主体の空間～

- 南北軸は、2期区域の「みどり」と一体となり、水と緑を配置したゆとりある歩行者主体の空間を形成する。また、沿道に賑わいを持たせる工夫も行う。

(3)西口広場 ～「みどり」に迎え入れるゲート空間～

- 交通機能を確保した交通結節点としてだけでなく、関空と直結する新駅に降り立った海外からの来訪者を歓迎するゲート空間として、開放性やシンボル性を重視した空間形成を図るとともに、新駅から地上に向かう人が印象的な「みどり」を体感できるよう工夫する。

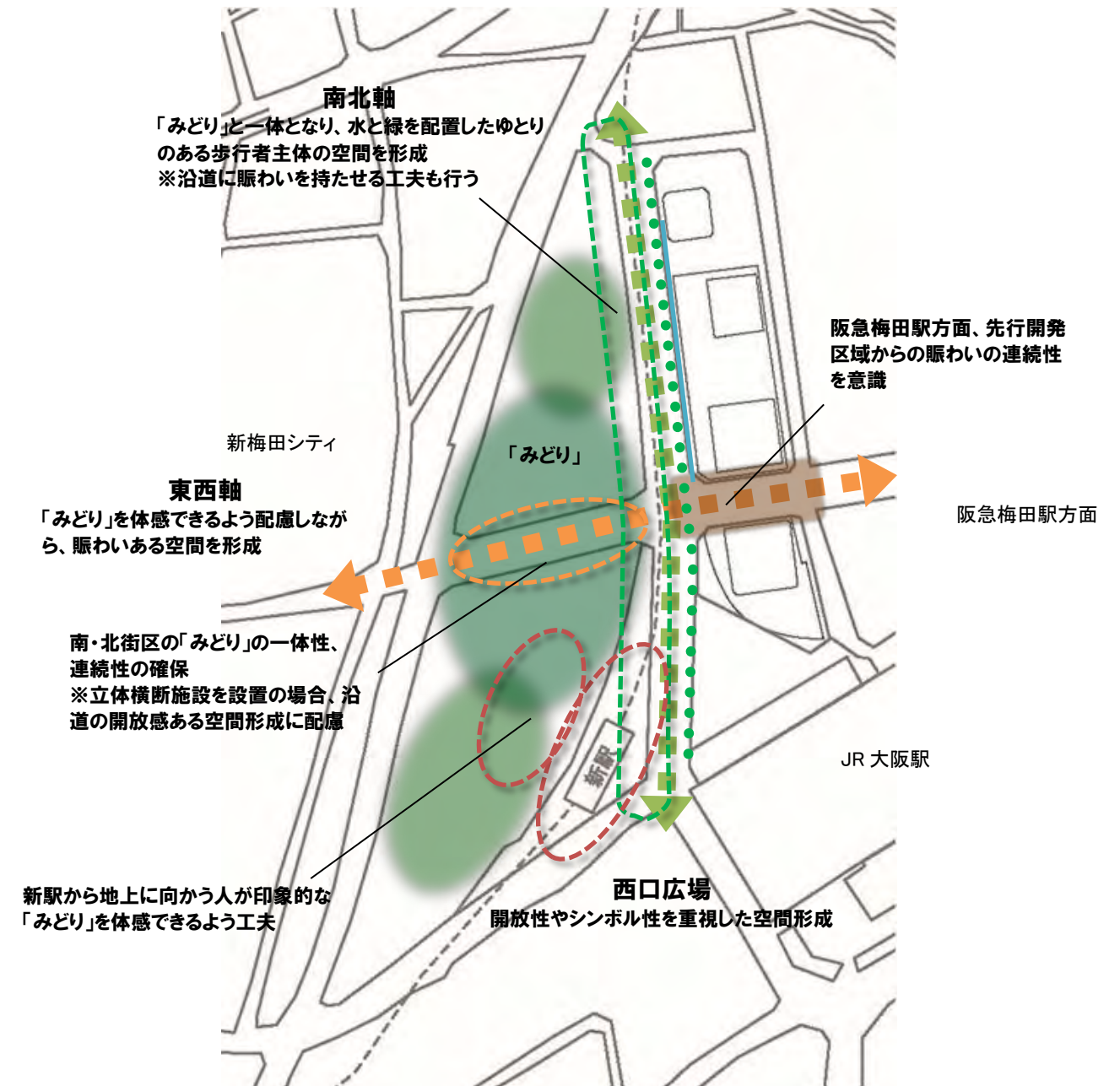


図 まちの骨格の景観形成、空間づくりの概念図

5. 交通ネットワーク ～歩く楽しみ・喜びを創造するまちづくり～

<基本的な考え方>

地区全体を歩行者が自由に楽しみながら移動できる、回遊性のある重層的な歩行者ネットワークを形成するとともに、周辺地域とのネットワークにも配慮する。また、自動車交通を抑制する等により、うめきた地区全体を「歩行者中心のまち」とする。

(1) 歩行者ネットワーク

- 歩行者が地区内を自由かつ快適に行き交い、「みどり」やまちの賑わい等を楽しむことができるよう、地下レベル～地上レベル～デッキレベルの重層的かつ回遊性の高い歩行者ネットワークを形成する。
- 特に、先行開発区域やJR大阪駅から歩行者が円滑に移動できる動線の確保に配慮する。
 - ・ 地上レベルでは、主軸となる東西軸、南北軸に加え、「みどり」など街区にも回遊性の高い動線を確保し、歩行者がゆったりと地区内を回遊でき、「みどり」の空間やまちの賑わいを楽しむことができるネットワークを形成する。
 - ・ デッキレベルでは、利便性の向上の観点から円滑な歩行者ネットワークを確保するだけでなく、デッキをまちを眺望する新たな視点場として位置づけ、そこからの眺望がここにしかないシンボリックなものとなるよう配慮する。
 - ・ 地下に設置される新駅から地上の「みどり」へと来訪者を誘う動線を確保する。
 - ・ 南・北街区を結び、2期区域の一体性を向上させる歩行者動線を確保する。

(2) 自動車ネットワーク

- 安全で快適な歩行者空間を確保する観点から、東西軸、南北軸は歩行者主体の空間として位置づけ、自動車は地区西側の道路からのアクセスを基本としつつ、西側道路における歩道の分断をできる限り避けるため、駐車場出入口の集約化を行う。



図 歩行者ネットワークの概念図

6. 災害に強いまちづくり ～周辺地域をも支える防災機能～

<基本的な考え方>

- 地震や津波等、大規模災害時においても、ハード・ソフトの両面で BCP に対応できる機能を備え、周辺地域も支えながら速やかに機能を回復し立ち直ることができるレジリエントなまちを実現し、その価値を世界にも発信する。

(1)大規模災害にも対応したレジリエントなまちの実現

- 南海トラフ巨大地震の津波浸水想定等を踏まえ、「みどり」・建築物について、必要な高さや強度を持つ空間を確保する。
- まとまった「みどり」を大規模災害時の一時退避スペース(都市再生安全確保計画において現状で約 34,000 m²不足と想定)や救助活動等を行うために必要な空間として活用する。

(2)自立型エネルギーインフラの導入

- 大規模災害時においても経済活動を継続できるよう、エネルギーインフラの耐震性の強化と代替性の確保を図るとともに、自ら非常用電力の確保・供給を可能とするため、再生可能エネルギーや蓄電池等を組み合わせた自立型分散電源を導入するなど、電気・ガス・通信を組み合わせたエネルギーインフラを構築し、世界に広く発信する。

(3)周辺地域も含めた BCP への対応

- 大規模災害時において、周辺地区からの一時退避者への支援、外国人への防災情報の提供、先行開発区域や新梅田シティ・JR 大阪駅などの周辺施設・街区とエネルギー融通できるシステムの構築など、区域外も対象とした拡張性を持った BCP 対応機能の展開をめざす。

7. 環境共生のまちづくり ～未来の環境技術・システムの導入～

<基本的な考え方>

- 「みどり」の活用、最先端の技術の導入により、環境負荷の低減、エネルギーの効率化、低炭素化に取り組むとともに、環境に関連する取り組みの成果を発信するなどにより、まちのブランド価値の向上を図る。

(1)最先端の環境技術の導入

- 「みどり」の水・緑を活用しながら、最先端の技術を積極的に導入し、常に世界最高水準の省エネルギー化、低炭素化に継続的に取り組む。
- 将来実用化が期待される水素発電などの研究・実証段階の技術についても、研究・開発の状況に応じて積極的に導入する。

(2)災害時の BCP 対応を兼ね備えた環境負荷の少ないエネルギーシステムの導入

- エネルギーインフラについては、再生可能エネルギーや未利用エネルギー、蓄電池等を利用し、平時の環境負荷の低減に配慮しつつ、大規模災害時のBCP対応も兼ね備えたものとする。
- 地区全体でエネルギーの融通・相互利用や需給抑制などを行うとともに、ICT 技術等を活用した地区全体でのエネルギーマネジメントを行う仕組みを導入する。

(3)環境価値の可視化と発信

- 環境に関する情報・技術の仕組みや CO2 削減などの改善効果の「可視化」を積極的に進め、環境のショーケースとして世界に広く発信するとともに、まちのブランド化を図る。

8. まちの管理運営 ～拡張、発展させるエリアマネジメント～

<基本的な考え方>

- 「みどり」を中心とした公共空間等の一体的な管理運営に、防災・環境面での取り組みなども組み込みながら、安定的な財源確保等による自律的・持続的で質の高い管理運営を行う。
- 将来的なまちの変化とあわせて、エリアマネジメントにも可変性を持たせ、拡張・発展させる。

(1) 質の高い「みどり」の運営管理

- 「みどり」の運用・活用により得られた収益を管理等に還元することにより、質の高い「みどり」の運営管理を可能とし、「みどり」の魅力や価値を継続的に向上させる好循環を生み出す仕組みを構築する、先導的なパークマネジメントを行う。

(2) 地区の競争力を高めるエリアマネジメント

- 先行開発区域と積極的に連携し、うめきた全体での継続的なにぎわいの創出等、地区の価値の向上に資する取り組みを実践する。加えて、BID 制度などにより、エリアマネジメントを担う事業者が持続的に管理運営を行うことができる財源を確保できる仕組みを導入する。
- ICT 技術等を活用したエネルギーマネジメント、歩行者の回遊性を高め CO2 削減にも寄与するパークアンドライドや巡回バスのような交通マネジメント、さらに災害時において周辺地域を含めた人々の安全の確保に寄与し、経済活動を継続できる BCP の策定と非常時の実施体制整備等の防災の取り組みなど、各分野における先導的なエリアマネジメントを導入し、情報ネットワーク・プラットフォームづくりを行い、成果を広く世界に発信し、まちのブランド化に繋げる。

(3) 可変性・拡張性を備えたエリアマネジメント

- 将来的なまちの変化、発展にあわせてエリアマネジメントの取り組みも可変性、拡張性を持たせ、多様な主体の参画、うめきた2期区域にとどまらず周辺のまちも含めた一体的な管理運営をめざす。

9. 周辺との一体的なまちづくり、周辺への波及効果等

<基本的な考え方>

- うめきた2期区域の開発の効果は、地区内にとどまらず周辺にも波及し、「みどり」のまちづくりを周辺へ拡大する。
- うめきた2期区域における「みどり」の創出は、周辺地域の価値を向上させ、土地利用転換など市街地更新を促す。この開発の波及効果を活かして「みどり」のまちづくりを周辺にも拡大する。また、それらを誘発するための仕組み(例:大街区化、容積移転など)を検討する。